



平成28年度
姉妹都市パサデナ市派遣
秦野市青少年訪問団・教職員等海外派遣視察団
訪問の記録



平成29年1月4日(水)～10日(火) 5泊7日

主催：秦野市、秦野市教育委員会

主管：秦野パサデナ友好協会、
パサデナ姉妹校派遣研修事業実行委員会

INDEX

1	訪問団名簿	p.1
2	日 程	p.2
3	事前研修等	p.3~4
4	見学地の概要	
	《1》 公的機関	p.5
	《2》 学 校	p.6~7
	《3》 観光地	p.8~9
5	ホームステイ	
	《1》 青少年	p.10~11
	《2》 教職員	p.12
6	訪問記録	
	《1日目》 1日4日(水)	p.13~14
	《2日目》 1日5日(木)	p.15~16
	《3日目》 1日6日(金)	p.17~19
	《4日目》 1日7日(土)	p.20~21
	《5日目》 1日8日(日)	p.22~23
7	報告会	p.24
8	感想文	
	《1》 青少年訪問団	p.25~32
	《2》 教職員派遣視察団	p.34~37
	《3》 市職員派遣視察団	p.38~40

1 訪問団名簿

青少年訪問団

	No	名前	性別	所属等
高校生	1	しもだ ちせい 霜田 智星	男	私立向上高等学校 2年
	2	ささき みう 佐々木 美宇	女	神奈川県立小田原高等学校 1年
	3	ほりぐち てっぺい 堀口 哲平	男	神奈川県立平塚江南高等学校 2年
	4	くらもと かな 藏本 果南	女	神奈川県立伊勢原高等学校 2年
中学生	5	かんだ ななみ 神田 七海	女	秦野市立南中学校 1年
	6	はし かずま 栞 一真	男	秦野市立鶴巻中学校 2年
協会	7	あいはら けいこ 相原 啓子	女	秦野パサデナ友好協会
随 行	8	こいずみ まこと 小泉 誠	男	市民部市民自治振興課
	9	むらかみ ともや 村上 智哉	男	市民部市民自治振興課
通 訊	10	さとう よしこ 佐藤 美子	女	財務部市民税課

教職員派遣視察団

小 学 校 教 諭	11	こが ひろみ 古家 ひろ美	女	秦野市立東小学校
	12	なかざと あやの 中里 綾乃	女	秦野市立南小学校
	13	あさみ みすほ 浅見 美珠穂	女	秦野市立本町小学校
	14	ねぐら めい 根倉 芽依	女	秦野市立末広小学校
随 行	15	あんどう みちよ 安藤 美千代	女	教育部教育研究所

市職員派遣視察団

市 職 員	16	かじた いずみ 梶田 和泉	女	財務部資産税課
	17	とうま ひろゆき 藤間 宏幸	男	財務部契約課
	18	うえむら しょうご 上村 彰吾	男	市長公室広報課

2 日 程

平成29年1月4日(水)～10日(火) [5泊7日]

日(曜日)	時間	行動内容	宿泊
1月4日 (水)	5:40	秦野市役所集合	機内泊 Fairfield Inn & Suites Marriott
	5:50	秦野市役所出発	
	8:50	成田空港到着	
	10:50	成田空港出発(NH174)	
	7:45	ジョージ・ブッシュ国際空港着	
	9:00	訪問団と面会。空港出発	
	10:00	ホテル到着。チェックイン	
	11:00	昼食(ホテル内ロビー)	
	12:30	ホテル出発	
	13:00	独立学校区訪問。教育長表敬	
	14:30	市役所訪問。市長表敬	
	16:30	市役所出発	
	17:00	夕食(BUBBA'S)	
19:00	ホテル到着。休憩		
1月5日 (木)	8:00	ホテル出発	青少年：ホームステイ 教職員：ホームステイ その他：ホテル
	8:30	キャリア&テクニカル高等学校訪問	
	11:30	キャリア&テクニカル高等学校出発	
	12:00	スパークス小学校訪問	
	15:00	ホテル到着。休憩	
	17:30	ホテル出発。ホームステイ組は荷物を持つ	
	18:00	Welcome Party。ホストファミリーと面会(トンプソン中)	
	20:00	ホームステイ組はホストの家へ、ホテル組はホテルへ移動	
1月6日 (金)	8:00	ホテル出発	青少年：ホームステイ 教職員：ホームステイ その他：ホテル
	9:00	トンプソン中学校訪問(昼食有)	
	12:00	大人はトンプソン中出発。青少年は残る。	
	12:30	テーク小学校訪問	
	15:30	ホテル組はテーク小学校出発。ホームステイ組は、ファミリーと合流	
	15:30	ショッピング、夕食(Baybrook Mall)	
	19:00	ホテル到着。休憩	
1月7日 (土)	9:00	ホテル組は、ホテル出発。ホームステイ組は、ファミリーと行動	青少年：ホームステイ 教職員：ホームステイ その他：ホテル
	10:00	ガルベストーン訪問。ム・ディー・マンション見学	
	11:30	ショッピング(Buc-ee's)	
	12:30	昼食(CATFISH)	
	15:00	戦艦テキサス、サンジャシント記念塔見学	
	18:00	ホテル到着。夕食、休憩	
1月8日 (日)	9:00	ホテル出発	Fairfield Inn & Suites Marriott
	10:00	NASA 見学。昼食	
	14:00	ショッピング(Wal Mart)	
	18:00	サヨナラ・パーティー(ホテル内パーティー・ルーム)	
1月9日 (月)	7:00	ホテル出発	機内泊
	8:00	ジョージ・ブッシュ国際空港到着	
	10:15	ジョージ・ブッシュ国際空港出発(NH173)	
1月10日 (火)	15:40	成田空港到着	
	16:40	成田空港出発	
	19:40	秦野市役所到着	

3 事前研修等

(1) パサデナ姉妹都市交流促進フォーラム「青少年訪問団激励会」

日 時：平成28年10月1日（土）午後1時～

場 所：秦野市立本町公民館2階大会議室

内 容：訪問団員紹介、抱負発表、先輩訪問団からのアドバイス、秦野パサデナ友好協会激励



壇上に上がった青少年訪問団員

(2) 第1回事前研修（「スカイプ・キャンプ」プレ研修）

日 時：平成28年10月17日午前9時～11時

場 所：教育庁舎3階会議室ABC

内 容：グルーピング、スカイプのテスト稼働、質問事項の検討・作成

(3) 第2回事前研修（スカイプ・キャンプ）

日 時：平成28年10月21日（金）午後8時～22日（土）午前9時

場 所：表丹沢野外活動センター

内 容：トンプソン中学校の生徒とのスカイプ交流



英語であいさつする青少年訪問団員



トンプソン中学校の生徒たち

(4) 第3回事前研修（英会話研修）

日 時：平成28年11月26日（土）

午前10時～正午

場 所：秦野市役所本庁舎3階講堂

内 容：自己紹介、英語のアウトプットの練習



英語で自己紹介する訪問団員

(5) 第4回事前研修（英会話研修）

日 時：平成28年12月10日（土）午後3時～

場 所：秦野市役所西庁舎3階会議室

内 容：他己紹介、英会話すごろく



英語でパートナーを紹介する
訪問団員



すごろくで親睦を深めつつ
英語を学ぶ訪問団員

(6) 第5回事前研修（英会話研修）

日 時：平成28年12月27日（火）午前9時45分～

場 所：秦野市役所本庁舎4階議会第1会議室

内 容：お金のやりとり、入国審査の練習



店員になってドルのやりとりを練習



色々なタイプの入国審査をシミュレーション

(7) 結団式

日 時：平成28年12月27日（火）午前9時～

場 所：秦野市役所本庁舎4階議会第1会議室

内 容：訪問団紹介、正副団長あいさつ、古谷市長・内田教育長・
望月秦野パサデナ友好協会会長激励あいさつ、親書受渡し



市長から親書を託された相原団長



全員で集合写真

4 見学地の概要

《 1 》 公的機関

① パサデナ市役所 (PASADENA CITY HALL)



市庁舎は、日本のように、高さのある建物ではなく、広大な敷地に、平屋造りの建設物が点在しています。

市庁舎の隣には、DVDの貸出や古本屋まで備えた図書館や警察署などがあります。

今回の訪問では、ジョニー・イズベル市長をはじめ、市職員、市議会議員、その他関係機関の方々に迎えられ、庁舎内で交流会が開催されました。

交流会には、パサデナ市と秦野市の市章が入ったケーキが用意されていました。



② パサデナ独立学校区 (PASADENA INDEPENDENT SCHOOL DISTRICT)

小中学校、高校などの教育行政は、市役所とは独立した組織である「パサデナ独立学校区」が管轄しており、その長としてスーパーインテendent（学区長、教育長）がいます。

パサデナ独立学校区は、1896年にたった一つの教室しか無い学校から始まり、現在では7,200人の職員、新設された職業訓練高校を含めた全63校に54,000人の生徒が在籍するほどに発展しました。公立の学校数は、elementary school（日本の小学1～4年）が35校、middle school（小学5・6年）が8校、intermediate school（中学1・2年）が10校、high school（中学3年～高校3年）が5校あります。高校まで義務教育であるため、学費は無料です。



今回の訪問では、女性初のパサデナ独立学校区教育長となったディアン・パウエル氏が、教育制度の概要を説明してくれました。

《2》学 校

①テグ小学校 (TEAGUE ELEMENTARY SCHOOL)

日本の小学1～4年生にあたる年齢の児童が、通う公立小学校。秦野市立本町小学校と1984年に姉妹校提携を結んでいます。

校内にはキンダーガーデン（6歳児）の教室もあり、英語とスペイン語の母国語の違いによってクラスは分かれており、幼少期からパソコンに触れる教育が施されていることも特徴です。



今回の訪問では、体育の授業に参加したり、スクールカウンセラーが独自の方法で、喧嘩した子どもたちの関係修復を行う風景などを見させていただきました。

②スパークス小学校 (SPARKS ELEMENTARY SCHOOL)



日本の小学1～4年生にあたる年齢の児童が、通う公立小学校。秦野市立西小学校と1987年に姉妹校提携を結んでいます。NPO法人和楽器の会・糸竹舎が、2004年にパサデナ公演を行った際に使用した箏が寄贈されています。

今回の訪問では、糸竹舎に所属している相原訪問団長が、寄贈されている箏を使用し、スパークス小学校の児童らに弾き方を指導し、琴のメンテナンスも行った。



③トンプソン中学校 (THOMPSON INTERMEDIATE SCHOOL)

日本の中学1～2年生にあたる年齢の生徒が、通う公立中学校。パサデナ独立学区の中では、上位の学校だとされており、950人の生徒が在籍しています。

沢山の課外授業があることで知られ、中でも吹奏楽などの音楽活動は、テキサス州内で賞を獲得するなどの活躍を見せています。



2009年に秦野市立渋沢中学校と姉妹校提携を結んでおり、2014年からSkypeによる交流も行っております。



今回の訪問では、青少年6人がトンプソン中学校の生徒と一緒に授業に参加させてもらい、貴重な体験をしました。大人たちは、実際に吹奏楽などの演奏を披露していただいたり、演奏に参加したりしました。

④キャリア&テクニカル高等学校 (CAREER&TECHNICAL HIGH SCHOOL)

日本の中学3年～高校3年生にあたる年齢の生徒が、就職に必要な知識や技術を学ぶことができる高等学校です。この学校に通う生徒は、農業、商業、保健衛生、建設、土木技術、運送の6つの専門コースから、学びたい部門を選択し、受講することができます。



授業の内容には、インターンシップなど、実際に職業の現場を体験することができるプログラムも組まれています。



サンジャシント短期大学との協働プログラムにより、大学の単位を取得することもできます。

今回の訪問では、2グループに分かれて、実際に授業や実習で利用されている教室や施設を案内していただきました。

《 3 》観光地

①戦艦テキサス (BATTLESHIP TEXAS)

1910年に建造されたニューヨーク級戦艦です。当時としては最新鋭の技術が詰め込まれ、多数の大型砲台や米海軍で初めて量産型レーダーが搭載された戦艦として、第1次世界大戦や第2次世界大戦にも参戦しました。

現在は、1946年に戦艦としての役目を解かれ、ヒューストン市内にあるサンジャシント州立公園にて、博物館を兼ねた記念艦として静態保存されています。



②サンジャシント記念塔 (THE SAN JACINTO MONUMENT)

1939年に、テキサス独立戦争で亡くなった全ての兵士を追悼するために建てられた記念塔です。世界で最も高い柱型の石造建築とされています。

コンクリートと石灰岩でできた巨大な塔の頂には、テキサス州を象徴する「ロースター（一つ星）」が飾られ、塔の台座部分には、独立戦争前後のテキサスの重要な歴史に関する記述が刻まれています。高さ 152m 地点にある展望フロアへは、エレベーターで登ることができ、ヒューストンの風景が一望できます。



③ムーディー・マンション (MOODY MANSION)

1800年代に、ガルベストン地域で金融、保険、ホテル経営などのビジネスで名を馳せた「ムーディー家」が所有していた、ロマネスク様式の邸宅で、1895年に建てられました。現在は一般に公開され、ガイドツアーが組まれています。

ガルベストンという海に面した立地のため、1900年には大きなハリケーン被害にも遭っており、現在でも建物の至る所にその爪痕が見て取れます。



④ジョンソン宇宙センター（JOHNSON SPACE CENTER）

ヒューストン市内にあるアメリカ航空宇宙局（NASA）の宇宙センターです。全米に 10 施設ある NASA のフィールドセンターの一つであります。

元は、有人宇宙センター（MANNED SPACECRAFT CENTER）と呼ばれていましたが、1973 年に、テキサス州出身の元アメリカ合衆国大統領である、故リンドン・B・ジョンソンに敬意を表し、現在の名称に改名されました。

ア スペースセンター・ヒューストン（SPACE CENTER HOUSTON）

見学者及び訪問者が最初に入場することができる施設です。館内には、子どもから大人まで楽しむことができる、宇宙関連のアトラクションや体験資料、土産店などが設置されています。

この場所を出発地点として、敷地内の施設を見学できるツアーが用意されています。



イ クリストファー・C・クラフト・ジュニア・ミッションコントロールセンター（MCC-H）

アメリカ合衆国内全ての有人宇宙飛行を統制、監視する NASA の管制センターです。スペースシャトルの前ミッションの管制だけではなく、現在では国際宇宙ステーション（ISS）上で実施されるアメリカの様々な活動の指揮も執っています。見学ツアーでは、管制室を背面から覗くことができます。



ウ ロケットパーク（ROCKET PARK）

世界に 3 セットしかないと言われるアポロ・サターンVロケットが展示されている施設です。もともとは野外展示でしたが、アポロ 11 号の月面着陸から 38 年経った 2008 年に、展示室が建築され、機体自体も綺麗に修復されて再展示されました。

三段式ロケットであるサターンVの第1段はアポロ 19 号用に、第2段はアポロ 20 号用に、そして、第3段はアポロ 18 号用にそれぞれ生産された機体が展示されています。



5 ホームステイ

《1》青少年

①堀口哲平&霜田智星

【ステイ先】Butler 家



堀口哲平くん（高2）

少し不安でしたが、ホストファミリーの方々が優しく、出会ってすぐにゲームセンターへ行って、緊張をほぐしてくれたり、色々な場所へ連れて行ってくださいました。

秦野に必ず来てくれると言って下さったので、その時は自分が秦野を案内したいです。

霜田智星くん（高2）

ホストファミリーの家は、とても広かったです。英語のスピードが速くて聞き取るのが大変でしたが、ホストマザーと沢山会話をしました。

3人の子どもがいて、皆やんちゃでかわいかったです。



②藏本果南&神田七海

【ステイ先】Peña 家



藏本果南さん（高2）

アメリカ人の文化や習慣がよくわかりました。自然と英語を話さなくてはならなくなるので、得るものが大きかったです。

一番楽しかったのは、子どもたちと家の中で走り回ったり、スターウォーズごっこをして毎晩過ごしたことです。

神田七海さん（中1）

子どもたちと仲良く遊ぶことができ、楽しかったです。英語しか通じない環境で、英語力が高まりました。

ホームステイのおかげで、またパサデナに行きたいと思いました。



③佐々木美宇&栞一真
【ステイ先】Teichelman 家



佐々木美宇さん（高1）

最初は緊張していましたが、ファミリーが沢山話しかけてくれて、少しずつ緊張がほぐれました。

アメリカでの思い出が少しでも良い物になってほしいというホストファミリーの準備や気遣いが沢山感じられて胸がいっぱいになりました。

栞一真くん（中2）

ホストファザーは、トンプソン中学校の教頭先生で、色々な体験をさせてくれました。一緒にピザ作りをしたり、ショッピングモールに連れて行ってもらったりしました。

ホストマザーが思い出の詰まったアルバムを作ってくれて嬉しかったです。



《 2 》教職員

④浅見美珠穂 & 中里綾乃

【ステイ先】 Will & Mari 家



浅見美珠穂先生（本町小）

ホストファミリーの気遣いのお陰で、私たちの英語力でも楽しく交流を深めることができました。
ホームステイ最終日には、親戚の方々も集まってバーベキューをし、会話を楽しみました。

中里綾乃先生（南小）

ホストファミリーがとても温かく迎えてくれ、私たちが楽しめるようにと気遣ってくれました。
数日ではありましたが、現地の生活の様子を体験することができ、観光では得られない経験をすることができました。



⑤古家ひろ美 & 根倉芽依

【ステイ先】 Jablonski 家



古家ひろ美先生（東小）

ステイ先のお宅の環境になじめるのか、また、ホストファミリーの方ときちんとコミュニケーションをとることができるのかなど、出かける前は不安に思っていました。ファミリーの方にとっても温かく迎えていただき、楽しい3日間を過ごすことができました。
言葉がうまく通じない相手とも真心をもって接することで心を通わせることができることを学びました。

根倉芽依先生（末広小）

とても大きな経験となりました。ステイ先のママは同じ小学校教員ということもあり、お互いの国の教育について話すことができました。また、パパはミリタリーヒストリーや宇宙についても詳しく、たくさん話を聞かせてくれました。
私がお礼に茶道でもてなしたときは、「きれいな色だ」と言って、とても喜んでくれました。



《1日目》1月4日（水）

午前5時40分、団員18名全員が秦野市役所1階ロビーに集合した。

秦野パサデナ友好協会の皆さん、訪問者の家族、学校職員らが大勢見送りに来てくれた。秦野パサデナ友好協会 望月会長から、「市の代表として訪問することを忘れず心得て訪問するように。体に気をつけるように。」など激励の言葉をいただいた。早朝にも関わらず、沢山の方が見送りに来てくれたことに感謝しつつ、秦野市役所を後にした。



バスは順調に成田空港へ進み、第1ターミナルには午前8時半に到着。搭乗手続きを済ませた後、各自両替をし、出国ゲートへ向かった。午前10時50分、全日空174便は、成田空港を離陸した。

約13時間もの長いフライトの後、現地時間午前7時45分にジョージ・ブッシュ国際空港へ到着した。入国審査を受け、到着ゲートへ行くと、パサデナ姉妹都市協会の方々の温かい出迎えを受けた。無事到着できた安堵感、やっと会えた喜びにより、皆自然と笑顔があふれていた。

姉妹都市協会が手配してくれた大型バスに乗り込み、一路パサデナ市へ向かった。ホテルに到着して、荷物を置いた後、ロビーのカフェスペースで協会の方が用意してくれたサンドイッチを食べた。サンドイッチが日本の倍の大きさと、一同驚いていた。

一息ついた後、大型バスでパサデナ独立学校区を訪問した。こちらは日本の教育委員会にあたる機関で、ディアン・パウエル教育長がスライドを使って、パサデナ市の教育制度について説明をしてくれた。ここでは、ケーキと紅茶をもてなしてくれた。



お土産を渡した後、皆カウボーイハットをかぶって記念撮影をした。

外に出ると、独立学校区専属の警察官2名がパトカーで待機してくれていた。職務や装備品の話の聞いたり、実際に防弾チョッキなどの道具を身に付けて写真撮影をした。

その後、バスで移動し、市役所を訪問した。歓談室では、市長をはじめ幹部職員、市議会議員や関係機関の方々が私たちを温かく出迎えてくれた。自己紹介の後、お土産を渡し記念撮影をした。市長の前には秦野市とパサデナ市の市章が描かれた特大ケーキや果物が用意されていた。我々のためにわざわざ用意してくれたそのケーキに感動しながら、現地の人の温かいもてなしを味わった。

その後、敷地内にある図書館を図書館長の案内により見学した。ゲームコーナーやパソコンコーナーなどがあり、日本の図書館とは違ったものだった。

また、市庁舎内の議場を見学して、市庁舎を後にした。



夕食のため、レストラン BUBBA'S へ向かった。そこはスポーツバーで、またもや特大のハンバーガーを、口を大きく開けて一同食べた。

そして長かった1日が終わり、ホテルへと帰った。

《2日目》1月5日（木）

2日目は、キャリア&テクニカル高等学校（CTHS）の見学から始まった。到着して正面玄関から入ると、大きなスクリーンがあり、“CTHSへようこそ 私たちの学校を訪問してくれてありがとう”と日本語で表示されていた。この出迎えには皆感激し、スマートフォンやカメラで写真を撮っては喜んでいた。

2班に分かれて校内を詳しく見学した。CTHSはまだ開校して2年ほどで、校内はとても綺麗だった。高等学校というよりは、まるで日本の専門学校や大学のようにだった。

CTHSは職業訓練高校で、次の6つの専門領域からなっている。

①農業アカデミー②ビジネス&ヒューマンサービスアカデミー③保健サービスアカデミー④製造&建設アカデミー⑤テクノロジー&エンジニアリングアカデミー⑥輸送&配達アカデミー

生徒たちは興味のある専門領域を選択し、技術を身につけるために一生懸命学んでいた。見学したコースは、医療・船舶関係・自動車修理・溶接工・大工・料理・テレビ・コンピュータグラフィック・保育・美容師・模擬裁判・獣医…など本当に数多くあった。全て実際の場面を想定した造りになっていて、こんな学校が日本にもあったら良いのという声が聞こえた。



午後は、スパークス小学校に移動し、児童と同じ食堂でお昼の給食をいただいた。その後、体育館や図書室、音楽室などを見学した。その中で印象的だったことは、日本と違って、教室の壁が無く、広いスペースが簡単に仕切られているだけだったということだ。

音楽室では、相原訪問団長が弾く箏にあわせ、児童たちが日本の民謡「さくらさくら」を披露してくれた。その他にも、音楽の先生の計らいで振り付けをしながら「こぶためきつねこ」を披露してくれた。私たちも一緒になって見様見真似で歌った。どの児童もとても楽しそうに歌っていた。その後、箏の演奏に興味がある何人かの児童は団長の相原さんから弾き方を教えてもらっていた。爪をつけて弦に触れるのが初め

てなのか、恐る恐るではあったが、それぞれ個性的な音色を響かせては、嬉しそうにしていた。

帰る際には、スパークス小学校のグッズなどが入ったお土産をいただいた。スパークス小学校の先生方や児童たちの優しさ感謝しつつ、小学校を後にした。

一度ホテルへ戻って小休止した。その後、校内のダイニングルームで、ホストファミリーとの顔合わせを兼ねたウェルカムパーティーが行われるトンプソン中学校へ向かった。



それぞれのホームステイ先のファミリーと食卓を囲んで談笑し、この後の3日間に皆期待が膨らんでいた。

子どもたちには、翌日から身に付けて現地の中学校生活を体験するために、トンプソン中学校のオリジナルTシャツが配付された。ファミリーごとに記念撮影をした後、それぞれの宿泊先へと向かった。



参加した青少年の中には、前日からの疲れもあり、ホームステイ先へは、翌日からの参加になった者もいた。

《3日目》1月6日（金）



午前中はトンプソン中学校を訪問した。それぞれの教室では、興味深い内容の授業が展開されていた。見学には2名の広報担当の生徒が随行し、私たち訪問団を紹介するため、写真を撮影していた。美術の授業では、有名な絵画を鑑賞する時間だった。グループに与えられた絵の人物に吹き出しが付いており、何を言っているのか想像し、発表するというもので、大変興味深かった。最後に、私たち1人ずつに手作りの作品をくれた。名前を呼ばれ、直接手渡しされた時は、とても感動した。また、吹奏楽の授業では、心を一つにした演奏を聴かせてくれた他、楽器が演奏できる訪問団員3人もとび入りで参加し、思い出に残る演奏となった。各授業を見学した中でとても印象的だったのは、一人一台パソコンを持って授業を受けていたことである。

昼食はスカイプ交流で見覚えのある図書室で中学校が用意してくれたメキシカンのピュッフェをいただいた。姉妹校である渋沢中学校の生徒による作品やスカイプ交流の際にトンプソン中学校の生徒と約束した秦野のTシャツをメリサ・アレン校長に渡すと、とても喜んでくれた。私たちも「THOMPSON」と書かれた赤いTシャツなどのお土産をいただいた。全員で着て、図書室にいた生徒たちも全員一緒になって、何度も記念撮影をした。



午後は、テーク小学校を訪問した。校舎の入り口では、ドアマンをしてくれた児童が満面の笑みで「Welcome to Teague!」と言いながら、我々一人ひとりと握手で出迎えてくれた。

最初に、図書室と呼ぶにはやや開放的な空間に案内され、学校の概要を説明してもらい、カップケーキをいただいた後、幼稚園から小学2年生までのそれぞれのスペースを見学した。

そこでは、児童の発達段階に応じた活発な授業の様子が見られた。こちらでも1人

1台パソコンを使っただけの授業で、小さな子がパソコンを使って学んでいる姿に驚いた。また、バランスボールの上で座りながら授業を受けたり、色々な表情をした人形を使って子どもたちの気持ちを理解したりするなど、日本とかなり違うスタイルに見入ったりした。



最後に、姉妹校の本町小学校の児童が書いた習字などの作品を贈った。

どこの小中学校でも、秦野市から贈られた児童・生徒の作品は、とても興味を持ってもらうことができ、廊下の所々に秦野からの作品が飾られているのを見て、これまでの姉妹校交流の絆を垣間見ることができた。

ホテルへ戻る途中、バイブルック・モールというショッピングセンターへ行き、買い物をした。迷子になりそうな広大な敷地で、お土産を買うのも一苦労だった。その後、その中にあるフードコートで夕食をとり、それぞれが食べたいものを食べて、ホテルへと戻った。

体育の授業では、ジャンケンをしながら相手の陣地を攻めるゲームが行われ、我々もチームを作って参加した。小学生に負けまいと必死になりながら楽しむことができた。音楽の授業では、児童たちからクリスマスソングのプレゼントがあり、子どもたちの生き生きとした表情が可愛らしく、心に残った。



青少年は、トンプソン中学校での授業を終えた後、ホストファミリーと行動した。

Butler 家の堀口くんと霜田くんは、スーパーマーケットでピザの材料を買ってから、家で調理しホストファミリーと食べ、家庭用ゲーム機で遊んだ後、ゲームセンターへ遊びに行った。

Peña 家の藏本さんと神田さんは、家で夕食をとった後、ゲームセンターへ遊びに向い、Butler 家と合流して一緒に遊んだ。

Teichelman 家の佐々木さんと栞くんは、Butler 家同様、スーパーマーケットでピザの材料を買ってから、家で調理しホストファミリーと食べた後、ブランケットを一緒に被りながら、マジシャンの動画を視聴した。

教職員は、テーク小学校の訪問後、ホストファミリーと行動した。

Will & Mari 家の浅見先生と中里先生は、ホストファミリーとクラブ&パブへ行き、テキサスのカントリーミュージックを聞いたり、音楽に合わせて陽気に踊る人たちを見て楽しんだ。

Jablonski 家の古家先生と根倉先生は、夕食をとった後、現地の本屋さんに連れて行ってもらった。

《4日目》1月7日（土）

この日のパサデナ市は例年にない寒波により、最低気温が華氏36度（摂氏2.2度）となり、テレビでは雪が降った州の報道をしていた。

ホームステイ組は、1日ホストファミリーと過ごした。

ホテル組は、天候の影響により、ガルベストーン港見学は中止となり、ムーディー・マンション、軍艦テキサス、サンジャシント記念塔を観光した。

まず、ムーディー・マンションの見学では、ムーディー一族の歴史と日本との共通点について学んだ。南北戦争の軍人だったW.L=ムーディーJr.氏は、この地で様々な産業を興し、家族とともに街を発展させていった、非常に重要な人物だということだった。



ムーディー・マンションを出ると、ガルベストーン港を横目に次の目的地へと向かった。大きな貨客船が停泊していたのが印象的だった。

カウボーイハットやブーツといった革製品など、テキサスグッズを多く取り扱うバ



ッキーズというスーパーマーケットにて、各々お土産を買った後、昼食会場のキャットフィッシュに向かった。港が近いのと、キャットフィッシュというだけあって、ナマズを取り扱ったメニューや、海老や帆立、魚などの海鮮メニューもあり、それぞれ注文したものについて楽しく話しながら食事ができた。

その後、軍艦テキサスとサンジャシント記念塔へ向かった。ホストファミリーのヤブロンスキーさんと合流し、とても寒い中、それぞれの歴史について、とても熱く語っていただいた。

軍艦テキサスは、2度の世界大戦に参戦したアメリカ戦艦の中では、現存する最後の艦船であり、総航行距離が100万キロ





を超えていること、また、当時の最先端技術を駆使して造られたものだという事だった。

サンジャシント記念塔は、テキサス独立戦争で亡くなった兵士の栄誉を称えるためにサンジャシント戦場に建てられたものである。コンクリートと石灰岩でできた高さ 174 メートルの世界一高い塔で、巨大な塔の頂上には、テキサス州を象徴する重さ 220 トン、高さ 10 メートルの「ロースター（ひとつ星）」が飾られていることなど、教えていただいた。この夕暮れ迫る中、塔の横に見える白い月だけが日本と同じものだと思い、思わずカメラのシャッターを切った。

ホテルへ向かう帰りの車では、山が無く平らなテキサスの特徴的な景色の中、窓から夕焼けを 180 度見渡せたことが印象的だった。

ホームステイ組は、一日ホストファミリーと行動した。

Butler 家の堀口くんと霜田くんは、午前中はホテルステイ組と共にガルベストン観光をした後、午後からホストファミリーと合流し、息子のタギー君が出場するバスケットボールの試合を観戦しに行った。その後、ヒューストン中心街へ移動し、ショッピングモールで買い物をした。夕食は、スパゲティーウェアハウスというレストランでスパゲティーを食べた。

Peña 家の藏本さんと神田さんは、朝ゆっくりと起床し、遅めの朝食をとった後、ギャレリアというショッピングモールでショッピングを楽しんだ。夜は、家で食事をとった後、ホストファミリーと一緒に映画を鑑賞した。

Teichelman 家の佐々木さんと栞くんは、朝寝坊してしまいホストファミリーに起された。この日は、息子のドミニック君が初出場するバスケットボールの試合があり、皆で観戦した。その後、ヒューストンに向かい、仮装衣装店に行って写真を撮って楽しんだ。昼食後、ショッピングモール「ギャレリア」でレゴブロックのお店を見たり、スケートリンクで遊んだ。その後、ドミニック君の友人の誕生日会に行って、おもちゃの銃で遊んだり、みんなで味噌汁を作って食べた。

Will & Mari 家の浅見先生と中里先生は、午前中、ガルベストン観光をし、午後はショッピングを楽しんだ後、自宅で BBQ をした。BBQ 終了後には、ホストファミリーの親戚が集い、会話を楽しんだ。

Jablonski 家の古家先生と根倉先生は、午前中にスーパーマーケットでお買い物をし、午後には、キーマ海岸の観光の後、ホテルステイ組と合流し、サンジャシント州立公園の見学をした。帰宅後は、夕食をとった後、ホストファザーのミリタリーヒストリーについての熱弁を聞きながら、会話を楽しんだ。

《5日目》1月8日（日）

ホームステイ組は、ホストファミリーと過ごす最後の日となった。

ホテル組は、NASA（ジョンソン・スペースセンター）を見学した。

周知のとおり、NASAは、人類最初の月面着陸で象徴的な役割を果たした宇宙管制センターで、広大な施設内には実際の宇宙服、本物のスペースシャトルやロケットカプセル、船内レプリカなど、実際に触れたり、体験できたりできる施設となっていた。私たちも宇宙服を着てみたり、珍しい土産物などを探したりしては、



遠い宇宙を身近に感じることができた。

その後、大衆ショッピングセンターのウォルマートでビッグサイズのショッピングカートを押しながら、たくさんのお土産を購入した。



午後6時、さよならパーティー開始。

パサデナ姉妹都市協会のメンバーが、ホテルの会議室にさまざまな装飾をしてきていて、我々をアットホームな空間に迎え入れてくれた。

まず始めに、ゲール会長からあいさつがあり、ビュッフェスタイルの食事をいただいた。



その後、ホームステイをさせていただいたホストファミリーに、一人ずつ英語で感謝の気持ちを述べた。そこでは、初日緊張した面持ちだった子どもたちや教員らが、家族と過ごした時間を大切に一つ一つ思い出しながら、また、身振り手振りを交えながら、笑顔で必死に伝えていた。その姿は、短い期間にも関わらず、パサデナ市の空

気やホストファミリーの温かさ、心の広さに触れ、大人も子どもも大きく成長した姿だった。

そんな姿や想いが、温かく見守ってくれていたパサデナ姉妹都市協会やホストファミリーの方々にも伝わり、あふれる気持ちを抑えきれず、涙々の別れの場面もあった。子どもたちは皆一様に「日本に帰りたくない」とつぶやいていた。

相原団長をはじめ、同行した随行職員と派遣職員もパサデナの方への感謝の気持ちを表すため、パフォーマンスを披露し、涙の中にも笑いがあった。

最後に、お土産の交換や全員で記念撮影を行い、なかなか消えることのない余韻をそれぞれ胸に抱きながら、パサデナでの最後の夜を過ごした。



7 報告会

(1) 日 時

平成29年2月2日（木）午後5時～6時

(2) 場 所

秦野市役所本庁舎3階講堂

(3) 内 容

訪問団員から一人ずつ、想いのこもった報告を行われた後、市長・教育長・秦野
パサデナ友好協会役員からおことばをいただきました。



8 感想文

《 1 》青少年訪問団

秦野パサデナ友好協会
相原 啓子（訪問団長）



私自身、今回で3回目となるパサデナ訪問に参加することができました。1回目、2回目はお箏の演奏とパサデナの皆さんとの親睦を深めることを目的に訪問しましたが、今回はパサデナに置いてあるお箏の状態を確認すること、パサデナの皆さんとの友好を深めることを目的に参加させていただきました。

今回は、中学生、高校生、小学校の教員、市職員、教育関係者など様々な分野の方々が参加し、いろいろな方面からパサデナの方々と関わりを持つことができ、改めて姉妹都市との友好関係の大切さを知ることができました。特にまだ若い世代の参加者については、海外との関わり方、日本（秦野）の良さを確認できたことなど、これからの人生にとって、とても貴重な5日間を過ごしていると実感している姿を目の当たりにできました。私自身も改めて秦野市が市の事業としてパサデナとの友好を通して、青少年の育成にも力を入れている街で暮らせることをありがたいと思いました。グローバル化が進む中、個人ではこのような貴重な経験をするのは難しいことですが、50数年もの間、人と人のつながりを大切に考え、姉妹都市との友好関係を続けていることをもっと多くの市民に知ってもらい、これからの若い世代にこのような素晴らしい経験をしてもらえるように、訪問したメンバー一人ひとりが広めていけたら良いと思いました。

訪問して毎回思うことは、パサデナの皆さんが自分の家族がパサデナに来るかのごとく暖かく迎えてくれて、私たちと過ごす時間をとても大切にしてくれていることです。今回も私たちの訪問をとても喜んでくれ、歓迎していただきました。そして、日本のことについても大変関心があり、とても熱心に日本のことを学んでいるということが分かりました。特に日本の伝統楽器のお箏に関しては、前回訪問の際に置いてきた教則本にはたくさんの書き込みがあり、日本の音楽を理解しようとする姿に感動しました。パサデナの子供たちには、日本の音楽を知ってもらえるようにと、日本の代表曲である「さくら」を箏譜・五線譜両方を使い、パワーポイントで生徒たちに理解できるよう指導していました。スパークス小学校の生徒たちが箏の音色に合わせ、「さくら」を合唱してくれた時には、パサデナの人たちが日本に親しみを持ち、



私たち秦野からの訪問団を心より歓迎してくれていると実感しました。

私は、今回初めてトンプソン中学校を訪問させていただきました。訪問団の学生は、トンプソン中学校で一緒に授業を受けていましたが、その瞳はとても輝いていました。日



本で英語教育の大切さをいくら説明するよりも、実際に現地での授業を受けることによって、学生は英語の必要性を実感できたことと思いますし、自ら進んで英語を学びたいと思った瞬間ではないでしょうか。

また、オーケストラ、吹奏楽の授業も見せてもらい、私を含め3名の訪問団のメンバーが吹奏楽の演奏に参加させていただきました。言葉は通じなくても、音楽は万国共

通で一緒に演奏できる素晴らしいものだと再確認できたことも、私にとって貴重な体験となりました。過去にも、秦野からは野球チームも訪問して親善試合などを行ったこともあると聞いています。これからは文化・スポーツなど共通の趣味を生かした交流、スカイプ・メールなど、いろいろな形でもっとパサデナと秦野の友好関係が深まると良いと思いました。

今回、このような貴重な経験をさせていただけたのは、秦野市長をはじめ市職員、パサデナ友好協会の方々など多くの方々のご尽力のお蔭です。感謝申し上げます。

アメリカはとても広大です。店、家、農場など、全てが大きいです。日本もアメリカくらい土地があれば、食料自給率は向上するのではないのでしょうか。

キャリア&テクニカル高等学校の設備は、公立だとは思えないほど素晴らしかったです。ふかふかのソファ、整備用の何十台もの自動車があり、料理関係の職業に就きたい生徒たちのためのキッチンなど、とても教育にお金をかけているのだと感じました。

スパークス小学校とトンプソン中学校にも訪問しましたが、2校とも女性の校長先生で、日本と比べて女性が活躍しているのだと感じました。

スパークス小学校の昼食は、日本の給食と比べると高カロリーです。小さい子どもたちがいっぱい食べていて驚きました。音楽の授業では、日本の歌と一緒に歌って楽しく交流できたので良かったです。自転車のような運動マシーンを使いながら授業を受けている児童がいて驚きました。



トンプソン中学校では、僕たちも一緒に授業を受けました。1時間目はリーディングの授業でしたが、皆パソコンを使って授業を受けていてうらやましかったです。体育の授業では、トンプソン中学校の生徒と一緒にハンドボールをやりました。相手は中学生で、僕は高校生なので、身長差を活かして2点得点することができました。

ホストファミリーと会った後、ホストファミリーの家に行きましたが、驚くほど広かったです。ホストマザーと海外に言った経験があるかについて会話をしましたが、英語のスピードが速く、聞き取るのに苦労しました。ホストファミリーには子どもが3人いて、皆やんちゃでかわいかったです。

パサデナ姉妹都市協会に、朝鮮戦争を経験した方がいて、色々なことを聞き、朝鮮戦争について深く知ることができました。

最初、私は「アメリカとはこういうもの」と言うぼんやりしたイメージしか持っていませんでした。しかし、実際に行ってみると、パサデナはそのぼんやりとしたイメージさえも超えていました。

私の中で強く心に残っているのは、主に学校訪問とホームステイについてです。

私は、トンプソン中学校で沢山の生徒と話しました。学校内を案内してくれた子と一緒に授業に参加して、皆の前でスピーチをしたり、ハンドジェルを交換したりもしました。その他の生徒もとてもフレンドリーで、とても楽しかったです。

キャリア&テクニカル高等学校は、私の通う高校とは全然違い驚きました。学力云々はさておき「負ける」と感じました。

スパークス小学校では、私は初めて箏を演奏しました。海外に飛び出して初めて体験するのは、外国の文化だけではないのだなと思いました。



ホームステイをする時、私は目が回って耳鳴りがするほど緊張していました。「これは夢？」と考えるほど現実逃避しそうでした。正直帰りたかったです。

しかし、ホストファミリーの方々沢山話しかけてくれて、少しずつ緊張もほぐれ、次の日の朝寝坊して起こしてもらってからは、もう何があっても大丈夫だと思えました。そうなるからは会話も積極的にできるようになり、普段では有り得ないほど充実した時間を過ごしました。パサデナでの思い出が少しでもいいものになってほしいというホストファミリーの準備や気遣いがすごく沢山感じられて、胸がいっぱいになりました。

「早く終われ」と思っていた時間は、過ぎてほしくないものになりました。ホームステイは、する側も受け入れる側も面倒な事や大変なことが沢山あるけれど、だからこそ感動や絆が生まれる、とても価値のあるものだと思います。



ホストファミリーだけでなく、パサデナの方々の温かさのお陰で、アメリカが大好きになりました。また、ゲール会長が最後に仰っていたように、パサデナの地は、私の第2の故郷だと心から思いました。

「絶対にまた戻って来たい」「この繋がりを絶対に絶やさない」と、そう思いました。

今回、秦野市の代表として、姉妹都市であるテキサス州パサデナ市への訪問が決まった時、とても嬉しく、わくわくしていました。



しかし、それと同時に、自分の話す英語は通用するのか、秦野市の代表としてパサデナ市に訪問できることになっているのに、英語で秦野の良い所を上手く伝えることができるのかという不安もあり、いつもより英語を身近に置きながら生活し、パサデナへ向かう準備をしました。

本場の英語はとても速く、聞き取ることも難しかったのですが、パサデナの方々はとても優しく、ゆっくり自分に聞き取れるように話してくれたり、スマートフォンで画像を見せながら話してくれたため、相手の話を理解できたし、自分が言いたいことも伝えることができました。

少し不安だったホームステイでは、ここでもホストファミリーの方々優しく、出会ってすぐにゲームセンターへ向かい、自分たちの緊張をほぐしてくれました。その他にも、ヒューストンの中心地へ行ったり、ホストファミリーの親戚の家のものですごく広い農場へ行ったり、息子のタギーが出場するバスケットボールの試合を観戦しに行ったり、一生記憶に残るアメリカらしい体験を色々させていただきました。

自分も秦野や日本の良さについて、しっかりと伝えることができ、ホストファミリーの方々は、必ず来てくれると言って下さったので、その時は、自分が秦野を案内したいと思います。



私は、秦野市青少年訪問団として、パサデナ市を訪問して、良い経験ができたと思います。私は、参加した高校生の中では一番学力も低く、英語力も低いことを事前研修で知り、最初はついて行けるか不安でした。

しかし、私は人見知りもなく、誰とでも関係なく楽しめることには自信があったので、不安なことは考えずに、楽しみながら学ぶと決めて、訪問することにしました。

現地では、市役所や学校など、様々な場所を訪問しました。2日目には、トンプソン中学校の授業を一日一緒に受ける事を急に告げられ、戸惑いましたが、現地の生徒が沢山私を助けてくれたので、私はとても驚きました。そして、とても嬉しかったです。



ホームステイ先では、沢山の場所に連れて行ってもらいましたが、一番楽しかったことは、ホームステイ先の家で、ホストファミリーの子どもたち家の中を走り回ったり、スターウォーズごっこをして毎晩過ごしたことです。とても楽しかったです。

今回の訪問を通して出会った方々、5日間様々なお世話をしてくれたゲール、エディー、ミズホさん、ホームステイ先のママ、パパ、デニー、ベラ、トンプソン中学校の皆さん、全訪問団員、今回の訪問に携わりサポートして下さいました方々、自分の親に感謝します。

ありがとうございました。



私は、秦野市の姉妹都市であるパサデナ市へ訪問することができて、とても良かったです。なぜなら、英語しか通じない環境で、自然と英語しか話さなくなる上に、英語しか聞かなかったので、英語力が自然と身に付いたと思うからです。

訪問の日が近づくにつれて、とても緊張していました。なぜなら、親と離れたことが一度もなかった上に、日本を出て海外へ行くからです。

しかし、1週間くらいでしたが、親から離れて生活したことで、自分の事は自分でやらなければと考えるいい経験になったと思います。

また、沢山の良い思い出ができました。トンプソン中学校で実際に授業を受けたことや、何より、ホストファミリーの家に泊まってホームステイしたことです。

ホームステイは、私が小さい頃からやってみたいと思っていました。なので、パサデナでホームステイができて本当に良かったです。

ホームステイ先では、子どもと楽しく遊んだり、ホストファミリーと会話したり、とても良い思い出ができました。



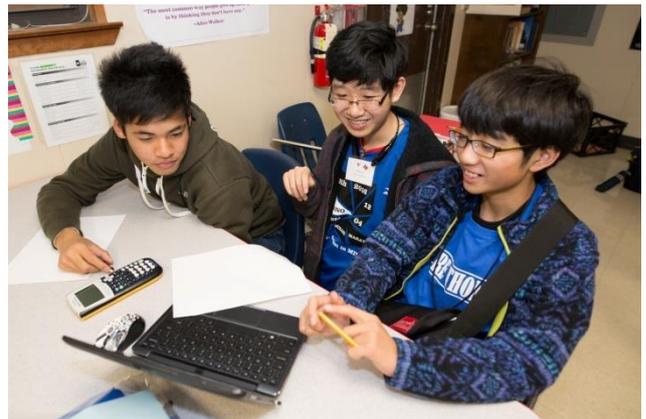
パサデナの皆さんは、とても優しくかったです。

またパサデナへ行きたいです。

僕は、映画やゲームでしか見た事がない土地に行ける事がとても楽しみでした。今回の訪問で、日本では体験できないような貴重な5日間を過ごす事ができ、行って良かったと思いました。

パサデナは、秦野と同じように自然がいっぱいあり、とても過ごしやすかったです。学校訪問では最初にキャリア&テクニカルハイスクールを訪問しました。建物は新しくオシャレで、調理、映像編集、美容、裁判、警察など多種の職業を学べる日本の専門学校のような学校でした。

次にトンプソン中学校を訪問しました。そこは建物の規模の割には人数がとても多く、休み時間になると全員が廊下に出て教室を移動するので、すごく混雑していて驚きました。授業は、日本のように黒板にたくさん書くのではなく、生徒全員にタブレットが支給され、タブレットをメインに授業をしていました。



ホームステイは8歳の男の子がいる家に泊まりました。ホストファザーはトンプソン中学校の教頭先生でした。家はとても広くて、和風の飾りも見かけました。

僕たちのために彼らは色々な体験をさせてくれました。近所の子の誕生日パーティーに参加したら、ゲームトラック(子供達にゲーム機器で遊ばせる事ができるケータリングサービス)が来ていて驚きました。そのトラックはアメリカで人気だそうです。

家族と一緒にピザ作りもしました。トッピングは子供達が担当し、ベイキングはお父さんが屋外の窯で行いました。とてもおいしかったです。ヒューストンの服装衣裳店や大型ショッピングモールにも連れて行ってもらいました。ショッピングモールには日本



にない Microsoft store があり、新型 XBOX ONE や VR 機器が展示されていました。ホストマザーが思い出のつまんだアルバムを作ってくれたのでうれしかったです。

ヒューストンにあるNASAにも行く事ができて、本物のロケットやスペースシャトルを間近に見て大きさに感動しました。宇宙食を始めて食べました。意外とおいしかったです。

テキサスの食事はチップスを主食とした料理が多く、全体的に脂っぽいものでした。ケーキが甘すぎて驚きました。日本食はヘルシーだと思いました。

行く前は英語が通じるか不安でしたが、行ってみて会話ができてうれしかったです。

秦野市財務部市民税課
主事補 佐藤 美子（通訳）



初めてパサデナ市へ訪問し、色々な所を見学させていただきながら、現地の人たちと交流する時間が多くありました。交流しながら感じたことは、パサデナ姉妹都市協会やパサデナ市の人々は本当に親切で温かい人ばかりということです。パサデナ姉妹都市協会の方々は、ご高齢にもかかわらず、細やかな準備をしてくださったり、地元の学校の先生や生徒たちは明るく元気に出迎えてくださり、初めて会うのにもかかわらず、とても温かな気持ちになりました。本当に感謝の気持ちでいっぱいでした。

今回、通訳という立場で訪問させていただきました。現地へ向かう前からテキサス州の英語は訛っていると聞いていたので、聞き取れるのかとても不安でした。パサデナ市に到着し、現地の生の英語を耳にすると、確かに訛っていて、スピードが速く聞き取るのに苦労しました。

秦野市からの記念品を教育長などへ渡すとき、英語でお話をさせていただきました。自分の英語を相手の人が理解してくれるだろうか、また、相手の英語を理解できるだろうかと少し不安でしたが、お互い意思疎通を図ることが出来ました。

スパークス小学校を訪れた際に、相原訪問団長が、箏の演奏で日本の民謡「さくらさくら」を披露したとき、児童たちが一緒に日本語で歌ってくれたのを聞いて、日本の文化を伝える事はとても重要だし、日本の文化を伝えるためには、もっともっと自分が日本の良さを知らなくてははいけないし、英語もさらに勉強しなくてはと感じました。

最後に、この姉妹都市交流を通じて出会えたパサデナ市の方々、並びに訪問団の方々に感謝しつつ、今後のパサデナ市と秦野市のさらなる姉妹都市交流が発展することを望みます。



《 2 》教職員派遣視察団

秦野市立東小学校
教諭 古家 ひろ美
(副訪問団長)

昨年の第1回外国語活動部会で、パサデナへの派遣についてのお話を伺い、その後自分がそのメンバーとして選ばれたと聞いた時は、まだずっと先の話だと思っていましたが、あっという間に何回かの研修や説明会を経て出発の日を迎えたように思います。

アイリーン先生からの中学生や高校生との事前研修はとても勉強になる有意義なものでした。最初のうちは、派遣団のメンバーの大人も子どもも、よそよそしい感じでしたが、研修や実際の行程の中で、全体の結束も高まりました。同じ市内に住みながら、違う世代や職場の方々と共に行動する機会をいただいたことも、とても新鮮な体験でした。

ホームステイでは、今までにない経験がたくさんありました。初めてホストのご夫妻と会った時、ご主人の話がほとんど聞き取れず、途中からBGMにしか聞こえなくなってしまい、どうしようかと途方にくれました。幸いホームステイは二名ずつでしたので、根倉先生と確認しながら少しずつ理解したり、お返事をしたりということを積み重ねていきました。また、奥様が小学校の先生でしたので、学校のことで疑問に思ったことを質問したり、逆に日本の学校のことを紹介したりすることができました。奥様の担当する3年生の何人もの子どもたちから「自分の名前を日本語で何というの?」と聞かれ奥様も「言い方は何語でも変わらないのにね…」という場面がありました。そこで、根倉先生とも相談して、持って行った和紙に子どもたちの名前をカタカナで書いたり、出発前に先生方からアドバイスをいただいて持って行った折り紙でお花や手裏剣を折って20名全員にプレゼントしました。それを奥様が子どもたちに渡して、子どもたちが喜んでいる写真を送ってくださり、私たちもうれしくなりました。このようなささやかことではありましたが、パサデナと秦野をつなぐ交流に自分が加わることができた喜びは他では味わえないものでした。

今回、大変貴重な機会を与えていただき、またとない体験をさせていただいたことは、教師としての私にとってだけでなく、私の人生にも大きな影響を及ぼしてくれるものと

なりました。この経験を子どもたちだけでなく他の教職員の皆さまにも、お伝えしていけるよう努力してまいりたいと思っています。また、この素晴らしい事業が今後も継続して行われ、ますます秦野とパサデナとの市民レベルでの交流が盛んになっていくことを願ってやみません。

最後に、今回の事業に関わってくださった全ての皆さまに感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。





今回の研修を通して、私が思っていた以上に秦野市とパサデナ市の関わりの歴史の深さを感じました。たくさんの方が歓迎とおもてなしをしてくださり、国を跨いだつながりを感じ、嬉しく思いました。小学校の訪問は初めて知ることばかりで、学校教育に対して重点にしていることや、考え方の違いに驚き、大変勉強になりました。実際に見て、話を聞くことで得られることがとても多くありました。

ホームステイでは、ホストファミリーがとても温かく迎えてくれ、私たちが楽しめるようにと気遣ってくれました。土曜日には、ムーディーマンションの観光地に連れて行ってくれ、その後、アウトレットで買い物をしました。最終

日の夜には、BBQの食事会が開かれ、楽しい時間を過ごすことができました。数日ではありましたが、その場の生活の様子を体験することができ観光では得られない経験をすることができました。

私は、今回この研修に参加できて良かったと思います。普段経験できないことや、見たことのない景色、人との出会いなど自分自身にとって糧になった研修でした。新学期を向かえ、この経験が無駄にしないようにしたいと思い、私が見てきたことをクラスの子に写真を交えて話をしました。子どもたちは、興味深々に聞いてくれ、「将来、行ってみたい。」「僕たちの学校と違うね。」などの感想をもっていました。異文化理解に少しでもなったのではないかと実感したと同時に、写真を見る熱心な姿から、私自身の経験を伝えることで、子どもたちの成長が少しでも豊かなものになるのではないかと感じることができました。



パサデナ訪問の最後を飾ったサヨナラパーティーであんなに思いがあふれるとは、全く思いもしていませんでした。パサデナで出会った人々のあたたかい心、パサデナで見て、聞いて、肌で感じて学んだこと、すべてで胸がいっぱいになりました。今でもまだ、その時の感覚が忘れられません。

訪問の中で一番興味深く、刺激的だったのは、やはり学校見学でした。日本の学校とは全く異なるカリキュラム、設備、学校というものの在り方など、驚かされることであふれていました。見学を通して、アメリカの教育のよさばかりに目が向いてしまうこともありましたが、現地の先生と話す中で、日本の教育のよさ、アメリカの教育のよさ、そして互いの課題などを冷静に見つめなおすことができたと思います。ここで広げた視野をこれからの教育活動に生かしたいです。



また、パサデナの人々との交流も大変思い出深いものとなりました。この訪問が心あたたまるものとなったのは、まさに人との出会いがあったからだと思います。特に、ホームステイでは、ファミリーのみなさんの気遣いのおかげで、私たちの英語力でも楽しく交流を深めることができました。

パサデナ訪問の機会があれば、また是非参加し、出会った人々との再会を果たしたいと強く思います。

秦野市立末広小学校
教諭 根倉 芽依



どの見学先でも勉強になることが多く、覚えて日本に持ち帰りたいことばかりでした。

特に、初日に教育長にお話を聞いた際には、日本との制度の違いに驚くことばかりでした。

また、2つの小学校でも、日本とはちがう工夫が多くあり、それぞれの学校で特色を全面的に出して教育活動を行っているように感じました。工夫点だけでなく、そういった

姿勢も勉強になる所だったと思います。キャリア&テクニカル高等学校やトンプソン中学校も、子どもたちの思いや自主性を発揮する場を早い段階で設けているように感じ、さらに詳しく知りたいと思いました。

今回の訪問でホームステイをさせていただけたことは、私にとってとても大きな経験となりました。ホストマザーは同じ小学校教員ということもあり、お互いの国の教育について話すことができた。また、ホストファザーはミリタリーヒストリーや宇宙についてとても詳しく、たくさん話を聞かせてくれました。私がお礼に茶道でもてなしたときは、「きれいな色だ。」と言って、とても喜んでくれました。

観光地ではなく、学校やスーパーでの買い物、家庭料理作りや犬の散歩など、パサデナ市の地元の方々の生活を体験することができ、とても貴重な体験となりました。

訪問全体を通して、パサデナ姉妹都市協会の方々のお力で、非常に有意義な訪問をさせていただくことができ、とても感謝しています。



この経験を自分の教育活動の糧として、今後、秦野の子どもたちの中に、パサデナ市をきっかけに外国に興味をもち、外国との交流を希望する子どもが現れるよう、積極的に活動していきたいと思います。

《 3 》市職員派遣視察団

秦野市財務部資産税課
主任主事 梶田 和泉

私にとっては、初めてのパサデナ訪問でした。

1番の印象はパサデナ姉妹都市協会の方々の温かさとおもてなしの心です。

まず、空港に到着すると、協会の方々が歓迎の旗を持って笑顔で迎えてくれました。安堵感と嬉しさで長旅の疲れが一気に飛んだことを覚えています。協会の方々は、常に私たちのことを考えてくれて、ずっと笑顔を絶やしませんでした。私もつられて笑顔になりました。英語については、ゆっくりわかりやすく話してくれたり、私たちの言葉に熱心に耳を傾けてくれたり、感動の連続でした。特に、ゲール会長とは休憩時間に席が向かいになり、教育、行政についてなど様々なことを話し合い、私の言葉にも耳を傾けてくれてその時間はとても印象に残っています。エディさんはいつも陽気で、冗談を言い合ったり、笑わせてくれたり、いつも楽しませてくれました。ミスホさんは日本語で気軽に色々なことを話してくれて、私にとってパサデナのお母さんのような存在でした。



小学校や中学校訪問では、生徒達が私達を歓迎してお土産までいただき、とても嬉しかったです。テーク小学校では歌を披露してくれたり、トンプソン中学校では演奏会をしてくれたり、私たちのために練習してくれたのかと思うと感激でした。トンプソン中学校では生徒達が私の氏名の入った作品を渡してくれて、とても嬉しかったです。

この6日間は、一瞬一瞬が気付きや発見の連続で、自分の視野の狭さ、考えが固まってしまっていることを痛感しました。そして、言葉では言い尽くせないような素晴らしいことを学び、私にとって一生の輝く宝物となりました。

また今回、市役所他課の職員、先生、中高生など普段は交流のない方々と出会うことができました。今まで話したことの無いような、職種、年齢の方々と毎日交流することにより、



たくさん学ぶことができました。そのような志高いメンバーと出会うことができ、共に学び、訪問できたことは幸運だったと思います。

このように訪問できたのは、今までこの関係を築いてくださった皆様のおかげだと思います。この絆をずっとつないでいきたいです。私を送り出してくれた、市役所、友好協会関係者の皆さんに心から感謝します。本当にありがとうございました。

秦野市財務部契約課
主任主事 藤間 宏幸



姉妹都市であるアメリカ・テキサス州パサデナ市への職員派遣は、今回が初めてとのことで、文化、スポーツ、生活スタイルなどによる交流を通して、どのような関わりができるのか、また秦野市の良さをどれだけ伝えることができるのか、不安と期待を抱きながら、参加させていただきました。

参加にあたり、事前研修会が開催され、本町小学校のアイリーン先生のコミュニケーション能力の向上、ホストファミリーとのコミュニケーション方法等を教えていただき、準備をしました。

行きの飛行機の中では、緊張しているためか、また12時間の長時間フライトのためか、なかなか寝付くことができず、睡眠不足のままヒューストン空港に降り立ちました。

空港ロビーでは、パサデナ姉妹都市協会の方々が大きな横断幕を持って、私たちを温かく出迎えていただき、とても感謝の気持ちで一杯になりました。

滞在中は、朝早くから夜遅くまで、ゲール会長を始め、パサデナ姉妹都市協会、テーク小学校、スパークス小学校、トンプソン中学校等、多くの方々に支援をいただき、無事に訪問ができました。

当初不安の中、参加させていただきましたが、帰国する際には、不安な気持ちはなく、このままパサデナに残りたい気持ちになっていました。それも、すべてパサデナ姉妹都市協会の皆様のおかげであり、またその活動を支援されている方々の温かさに触れ、そしてまたパサデナ市が好きになったからだと思います。

この姉妹都市の交流事業は、秦野市とパサデナ市の絆をつないでいくものだと思います。今回、訪問させていただいたことで、姉妹都市の交流事業の大切さ、そしてなによりも現地で食事、文化、人柄、環境等を五感で感じるにより、自分自身の大きな財産になりました。この経験を私だけで留めるのではなく、より多くの人に知っていただき、また一人でも多くの人に伝えていく必要があると思いました。



最後に、このような海外視察という貴重な機会をいただき、ありがとうございました。そして、パサデナ姉妹都市協会の皆様に厚くお礼を申し上げますと同時に多くの方々に感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

今回、写真撮影を主な業務として同行させていただきましたが、訪問後に、広報紙で青少年訪問団を大きく取り上げることで、姉妹都市交流の大切さを市民に考えてもらうきっかけを作ることができました。広報課職員として尽力できたことに、満足しています。

訪問するまでは、いい写真を残すことができるか、正直不安でした。大切な瞬間を逃さないことはもちろんですが、青少年訪問団の中学生、高校生たちが「どれだけ現地の人と交流してくれるか」が鍵だったからです。しかし、初日からパサデナ市長の前で堂々と英語で自己紹介する様子を見て、安心しました。各訪問先では、目にしたもの一つ一つに興味を持ち、疑問があれば物怖じすることなく質問。伝わりづらいことがあっても、スマートフォンなどを使って説明したりと、慣れない環境の中でも自分の力でなんとかしようと頑張る様子は、見ていてとても誇らしかったです。終始彼らの動きを追い続けましたが、刺激を受け、成長し、交流が深まる様子がファインダー越しにも伝わりました。

自分が刺激を受けたこととしては、パサデナ市の広報体制にありました。市役所を訪問した際に広報担当の職員と話しましたが、パサデナ市には、「広報はだの」のような、いわゆる広報紙が存在しないとのことでした。学校も含めて「個の力」を重視しているため、必要な周知は各部署に任せているそうです。良し悪しはあるかと思いますが、

少なくとも、情報発信の主体を限定しない手法は、即時性や独自性、情報量にメリットがあると考えられるため、各部署の広報手段から秦野市が学び取れることは多いと思いました。また、「パサデナチャンネル」という独自の放送帯をもち、編集室やスタジオなど、庁舎内にテレビ局さながらの設備があることに驚きました。強力な発信手段を、どのような体制で、どのように活用しているかも、もっと詳しく知りたいと思いました。

笑いあり、涙ありの今回の訪問でしたが、大人も子供も楽しみながら、それぞれの視点で交流継続の大切さを実感できたと思います。訪問は簡単にできることではないですが、交流は一定の間隔で行わないと、互いの意識は下がってしまうと思います。また、今回の青少年訪問団のメンバーのように意欲の高い子供たちも、機会がないと埋もれて

しまいます。今後は、「スカイプ」などのインターネット交流をいかにうまく活用するか、ユニークなテーマでいかに市民の心を惹きつけるかが重要であり、その継続が、これからの姉妹都市交流の主体となる若者の発掘の近道だと思いました。





We love Pasadena!



平成28(2016)年度
姉妹都市パサデナ市派遣
秦野市青少年訪問団・教職員等海外視察派遣団
訪問の記録

編集・発行 秦野パサデナ友好協会事務局(秦野市市民自治振興課内)